

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちやんぷる		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自由に過ごせる時間が多く、子ども職員ものびのびと過ごす事が出来ること。	学校などで日々課せられた時間を過ごす子どもに対して、プログラム等をあえて設定せず(土曜日・長期休みは除く)、自由に過ごす時間を設ける。ただ自由に過ごして楽しんでもらうだけでなく、その中で日常的に起こるコミュニケーションや生活課題をしっかりと抽出し支援する。	子ども達が色々な人に関わり、色々な物事に触れて行くことで、感性や知識・言葉の理解の幅を広げていけるように、過ごしの中で人と関わっていくことや遊びが固定化されず色々な経験をしていけるための提案を行っていく事を意識する。
2	法人内に相談支援事業所があること。	相談支援員とは、日常的に職員とコミュニケーションを取る機会も多いので、その際に連絡帳や送迎時の引継ぎで知り得た情報を共有している。	引き続き、情報共有はしっかり行いながら日々の支援に取り組んでいく。
3	事業所の周りに公園や公共施設、商店街などがあること。	備品等の買い物と一緒にきてもらい買い物の練習をしたり、図書館に行って一人で本を借りる練習をしたり、社会に適応していくためのスキルを身に付けていけるように意識している。	言葉で表現する事が難しかったり、強度行動障がいの方であつたりしても、各々の状況に合った方法を考え、外に出て地域に触れていける機会を積極的に設けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもとの遊びが受け身になりがちで、遊びを提案することが少ない。	自由な過ごしが出来ている分、したいことに付き合いながら遊ぶという場面が多く、職員からの提案をして遊ぶという機会が少ない。	小集団でのレクなどを考えて提案していく等、少しずつ遊びの展開に幅を持たせるよう朝礼などで話し合いを行う。
2	建物が古い。		必要に応じて修繕作業や、子ども達の過ごしの中で危険と思われるような箇所の確認を行い、安全面には十分配慮していく。

3	経験の浅い職員も多く、専門的な知識がしっかり身に付いていない。		年間の内部研修の予定を組んでいるが、それ以外でも必要と思われる、自立支援協議会の学習会や外部研修等への参加を積極的に行っていく。
---	---------------------------------	--	--